

豊明市行政評価制度 「事務事業」評価票

一般事務事業	経常事務事業	建設事務事業
--------	--------	--------

第5次行政改革大綱第1次実施計画との関連		有 ・ 無
<input type="checkbox"/> 有		
<input checked="" type="checkbox"/> 無		

1 事務事業の概要

1-1 事務事業の名称	とよあけマラソン開催事業(主要事業)							
1-2 担当	部	教育部	課 又は施設	体育課	係	体育振興係	評価票作成者	体育振興担当係長 小島孝延
1-3 総合計画における施策の体系	節	教育文化 「個性ある文化と豊かな人間性を育むまちづくり」			基本施策	生涯スポーツ・スポーツ振興	コード	4 2 1
	項				単位施策(中)	生涯スポーツの充実	コード	4 2 1 2
		生涯スポーツ・スポーツ文化			単位施策(小)	とよあけマラソンの継続と参加者の増加	コード	4 2 1 2 1
1-4 事務事業の目的の精査	対象と対象の数	マラソン・ジョギングに参加する選手及びスタッフ	意図(対象を事務事業によってどのような状態にするのか)		とよあけマラソン大会を開催することにより、市民を始めとした参加者の健康増進を図る。また、市外・県外から多くの参加者が集うことにより豊明市の知名度アップを図る。			
1-5 事務事業の内容	市民を主体としたボランティアスタッフ500名と協力して毎年「とよあけマラソン」を開催する。「とよあけマラソン」は、JRA中京競馬場を舞台として市内の街路コースを走る市民マラソンで、10km・5km・2km・ジョギングの各コースがある。							

2 事務事業実施の状況

2-1 事務事業の実施における基本認識	事務事業実施にあたって心がけた改善の取組み		社会状況等の事務事業がおかれる環境把握		市民ニーズの認識	
	平成18年度	万博の理念を受け継ぎ、環境にやさしい排ガスを出さない電動オートバイを先導者として導入した。	マラソン大会が多くの市町で開催されるようになり、参加者が大会を選ぶようになった。		競馬場は広く設備が整っているため、市内外から多くの選手及び応援者が気楽に参加して交流を楽しんでいる。	
	平成19年度					
	平成20年度					
	平成21年度					
	平成22年度					
	平成23年度					
	平成24年度					
	平成25年度					
	平成26年度					

2-2 総合計画における単位施策成果指標	事務事業成果指標名		前期目標値(単位)	後期目標値(単位)	指標の説明
	とよあけマラソン参加者数(人)		4,000(人)	4,000(人)	会場・経費などにより、適切な参加者数を目標数値として設定した。

2-3 成果指標に係る活動実績とコストの推移(アウトプット分析)	活動実績 a(人)	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	直接事業費 b(千円)	3,102									
	人件費 c(千円)	12,437									
	合計コスト d(b+c)(千円)	3,803									
	単位コスト d/a(千円)	16,240									
		1人当たり	5	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり

アウトプット実績(活動数値)の補足説明 → 直接事業費 参加料 3,439千円 協賛金 2,964千円 委託料 5,700千円 繰越金等 334千円
 人件費 当事業は課全員で役割を決めているため、各担当する事業数で按分する。6,702 × (1/45 + 1/13 + 1/7 + 1/6 + 1/10 + 1/17)

		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
2 - 4 成果指標に対応する実績と達成度の推移	指標対応実績(単位)	3,102(人)									
	後期目標値に対する達成度(%)	77.6(%)									

3 事務事業の自己評価結果

3 - 1 評価結果(アウトカム自己分析)		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
単年度担当課評価		A									

- 4段階評価結果
- A : 上位目的である施策に貢献しているので継続する
 - B : 事務事業の実手法や環境(予算的・人的)に改善が必要
 - C : 縮小等、事務事業としての見直しが必要
 - D : 事務事業の廃止が相当
- 判断の基準
- 必要性(必要な事務事業であるか)
 - 公共性(公が実施する意味があるか)
 - 妥当性(ニーズに対して投入が適正か)
 - 効率性(結果に至る活動に無駄はないか)
 - 有効性(活動の結果が上位の目的に貢献しているか)
 - 市民満足度(事務事業が対象にしている市民を満足させているか)

3 - 2 評価の内容	今後の環境変化を踏まえた課題認識			次年度に向けて改善する取組み			事務事業の担当課としての単年度の取り組みの自己評価		
	平成18年度	近隣市町もマラソンを開催するようになり、参加者を確保するためのPR			より多くの参加者を確保するために、知名度のあるゲストを招待する。			マラソンは500名からなる市民ボランティアスタッフにより毎年運営されており、スタッフと参加者が融合して大会を盛り上げている。	
平成19年度									
平成20年度									
平成21年度									
平成22年度									
平成23年度									
平成24年度									
平成25年度									
平成26年度									
平成27年度									

4 事務事業の総合評価結果

4 - 1 総合評価の結果		結果	審査会による改善方向の指示
平成18年度	A	継続して事業を進めること。	
平成19年度			
平成20年度			
平成21年度			
平成22年度			
平成23年度			
平成24年度			
平成25年度			
平成26年度			
平成27年度			